



代理出産は究極の人助け ～イギリス最初の代理母として～

Interviewee

Kim Cotton
Childlessness Overcome Through
Surrogacy

Q. 代理母になった時の経験を教えてください。

アメリカのエージェントを通して1985年に代理母になった。イギリスのマスコミに見つかり、メディアに引っ張り出された。それをきっかけに、イギリスで、商業的代理出産と、代理出産の広告を禁止する法律が可決した。世論に基づいたお決まりの対応だった。

代理母となった時、孤独を感じた。ほかに話ができる代理母がいなかったから。他の人には同じような経験は味わってほしくないと思った。その後、代理母を経験した女性に出会い、1988年に私たちは共同でCOTSという団体を立ち上げた。

代理出産は素晴らしいことだとずっと言い続けている。それこそ人生を変えてしまうくらいに。人を助けることがすごく好き。代理出産では、他者との関りからもたらされる心地よさを得られる。も

のすごく価値あることだと思う。依頼者に子どもを渡したときの高揚した気持ちを思い出す。

だから、関わる人がきちんとサポートされていると感じられるようにしたいし、代理母を探すお手伝いをしたい。イギリスでは広告が禁止されているので、難しい面もある。

Q. 代理母は不足していますか？

代理母は、いつでも不足している。需要が供給を大きく上回っているから。COTSでは2年間登録を中止していて、空きがあったらその都度、対象者に連絡し、対応している。

イギリスの代理出産法には、これまで抜本的な変化はないが、同性カップルが親決定の申請ができるようになってから、需要が急増している。COTSは追いつくのにはいっぱいいっぱいだ。

COTSでは、メンバーを慎重にセレクトしている。現在約30組のカップルがいて、15組が妊娠中だ。何度も出産している代理母も結構いる。一番多い人で、15回も出産した代理母もいたが、彼女はCOTSの規則を破ったので他へ移って行ってしまった。別の代理母は10人ほど出産したが、実子は一人も持たなかった。彼女は妊娠するのが好きだったから。これまで、COTSから1089人が誕生した。



Q. 代理母に応募してくる女性は、代理出産について十分に理解していますか？

今のところ、ちゃんと理解していると思う。妊娠はひとりひとり違うし、健康が損なわれたり、合併症を引き起こす可能性もあると、COTS ではきちんとわかるように伝えている。通常、自分の子どもを産んでから代理母になるよう勧めているが、皆がそうするわけではない。それでも、女性たちは非常によく理解している。

Q. 出生前検査は、代理出産でどのくらい実施されていますか、その結果、中絶を受け入れる代理母はどのくらいいますか？

金銭的に余裕のある依頼者は、ほぼ出生前検査を実施している。この検査は今では一般的になっている。多くの人は2年間保存できる凍結胚を持っているので、選択肢がある。障害のある子どもを産むことは代理母にとってかなりショックなことだ。

中絶になる例もあるが、それほど多くはない。今まで、障害がわかった胎児の妊娠を継続した例はなかった。代理母と依頼者のマッチングの基準として中絶についての見解が一致することを入れている。だから一致していなければ、そもそも契約は結ばれることはない。

Q. 代理母にはどのような人が多いですか？

代理母に共通するような属性は特にないのではないかと思う。共通することといえば、皆、“無謀”(mad)だということ。言い換えれば、“パイオニア精神”がある。コンフォート・ゾーンから出すことに抵抗がない。周囲や世間からたびたび批判され、この感覚がより強くなるようだ。代理出産をよしとしない人もある程度いるので、代理母は自分の決定に確信を持つ必要がある。

代理母は色々な職業についている。看護師、助産師、教師や保育士なども多いけれど、決まったパターンがあるわけではない。皆、自分の子育てを楽しんでいて、妊娠も楽しかった。彼女たちの余った時間を生産的なものにしてくれるのが、代理出産だ。

Q. 現在、COTS では、依頼者は何組ほど待機していますか？

目下のところ新しい依頼者は受け入れていない。Facebook のアカウントには、定期的に参加希望の申し込みがある。その中から最も切実な人だけを選ぶようにしている。もしマッチする相手が見つかりそうもない場合は、受け入れを保留にする。とりあえず受け入れて参加費だけ徴収するようなやり方はしない。待機している依頼者のプロフィールの保管をやってみたこともあったが、あまりにも負担が大きかったのでやめた。

代理母を見つけられるチャンスはとても少ないので、依頼者は積極的に行動す



る。つまり、自分たちで代理母を見つけようとする。アジア人カップルは文化の違いから希望に合う代理母を見つけるのが難しいが、フェイスブックを使って自分の出身のコミュニティで代理母を見つけた南アジア出身の女性もいる。ムスリムのカップルになるともっと難しい。彼らは秘密にしたいと思っているので、COTSで見つけるのは困難だ。南アジアでは不妊に強いスティグマがついている。

Q. すぐに代理母を見つけることができる依頼者はどのような人ですか？

いちばん大事なのは、ライフスタイルと人間性。関心を共有していることも大事。代理母と依頼者の友情と信頼は、代理母が生まれた子を手元に置く決断をしないため重要な要素だ(※イギリスでは代理母に決定権があり、子供を依頼者に渡さないで自分で育てることも可能)。

Q. 英政府は、規制緩和をして、代理母を増やせるような対策をすべきでしょうか？

代理母を増やせるように何らかの対策をすべきだと思う。現在、代理出産法の改正に向けて協議が進んでおり、COTSも、そのプロセスに関与している。見通しはかなり明るいと思う。代理出産の広告が認められ、事前親決定が認められ、子どもの誕生と同時に依頼者が法律上の親になれる(※これまでのように裁判所で親決定命令を受ける必要がなくなる)。

また、精子と卵子両方の提供(double donation)を受けての代理出産が認められることになりそうだ(単身者はすでに申請ができる)。そのため代理出産を希望する人たちが押し寄せてきているがCOTSではまだその人たちの受け入れができていない。まずは、すでにリスト上にいる待機中のカップルをなんとかしなければならぬ。また、多くの代理母(私も含め)は単身者に子どもを渡すのは心配になる。すでに多くのひとり親家庭が存在している。しかし、自分は、(どちらかに何かがあった場合に備えて)親がふたりそろっていることが望ましいと考えている。第一、ひとりで子どもを育てるのは負担が大きいし大変だ。

代理母を増やすためには教育も役立つ。学校の性教育は妊娠しないようにする方法を教えるが、不妊については教えない。不妊の問題、特にある年齢になると卵子の質が落ちることは教えるべきだ。女性が母親になろうとする年齢はどんどん高くなっている。後回しにするリスクを(男性も含めて)若い人たちに教えておく必要がある。

Q. 外国人の代理母はイギリスで代理母になることはできますか？

イギリスで居住権(residency)を持っていることができる。NHSに確実にアクセスできれば大丈夫。

外国人の代理母の場合、依頼者としては、代理母が赤ちゃんと一緒に飛行機に



乗って消えてしまわないかという心配が生じるかもしれない。

Q. 海外での代理出産の問題点は何でしょうか?

COTS は海外での代理出産は扱っていない。トラブルが多いのではないと思う。イギリスや海外にはそのような代理出産を扱うエージェントがある。

Brilliant Beginnings という海外での代理出産を取り扱うエージェントがある。とても高額な料金がかかる。今、COVID-19 のため、多くの赤ちゃんがウクライナやカナダ、アメリカで立ち往生している。赤ちゃんを引き取ることができない依頼者が多く出ている。

代理出産の料金は UK で約 30,000 ポンド、アメリカで約 200,000 ポンド、カナダは約 150,000 ポンド。ウクライナ 30,000-40,000 ポンドだが、ウクライナでは同性カップルは利用できない。

Q. 代理母と依頼者は継続的にコンタクトを取りますか?

ほとんどの依頼者がそうしている。はじめのうちは写真、日々の報告など頻繁にコンタクトをとるが、目新しさがなくなってくると徐々に連絡を取らなくなる。何を求めているかによる。

私が代理母になって産んだ双子は現在ニュージーランドに住んでいて、30 歳になる。今も双子の母親のリンダと定期的

にスカイプで話したり、Facebook を通して連絡を取り合っている。彼らがイギリスにやってきたら、落ち合う。リンダは私の母の葬儀にも参列した。拡大家族のよう。私たちはお互いどうしているか関心がある。それは思いやりのある叔母のような役割で、心配はするが責任はとらないという関係に近いかもしれない。

Q. 子供への告知は行われていますか?

子どもが(親から知らされておらず)自分でそのことを発見するのは良くないと考えている。親はきちんと知らせること、これは COTS のガイドラインに書かれている。たくさんの本が出ている。私には、卵子提供で生まれた孫もいる。私の娘は孫に卵子提供についての本を読み聞かせている。これは後で知ってしまった時のショックを防ぐことができる。

COTS では子どもに伝えることを条件にしている。かつては伝えない人が多かったが、現在はオープンで正直であることが絶対条件だ。

Q. 代理母と依頼者の交流は、子供に良い影響を与えますか?

子どもにとっては間違いなく良いことだ。COTS で生まれた子どもの例で、現在 20 代前半で医者になるために学んでいる女性がいる。彼女は遺伝上の母親や、父親の違うきょうだいと連絡を取り合っ



いる。巨大な拡大家族のようだ。彼女は COTS のアンバサダーとなり、代理出産法改正の審議で、保健省で証言した。彼女は代理出産で生まれた子どもとして独自の視点を持っている。

ケンブリッジ大学の教授が幼少期から十代後半までの、代理出産で生まれた子どもについての研究を行った。その結果、子どもたちは社会に適応し、信じられないくらいうまくやっていることがわかった。

Q. 代理出産法改正案の内容についてどう思いますか？

広告が解禁されたならそれは大きな利点となる。一方、商業的代理出産は引き続き禁止されるべきだ。法案の悪い面は、クリニックを通して代理出産を行う場合に、依頼者と代理母はそれぞれ弁護士をつけるという、余計な条件が課せられたことだ。いうまでもなく、これは弁護士に利益をもたらすものだ（そして、この条件を推し進めたのはほかならぬ弁護士だ）。依頼者にとっては余計なコストがかかる。COTS には顧問弁護士がいて、代理出産の最初から最後までカップルをサポートする。そんな難しいことではないのに。

また、カウンセリングを受けることが義務になる。しかし COTS を利用するカップルは既に受けている。COTS のカウンセラーからの報告書が認められるべきだ

が、クリニックでは認めないだろうから、さらに費用がかさむことになる。

私は、代理母は堂々と支払いをうけるべきだといつも言ってきた。現在、補償をどうするか、状況は不明瞭だ（仕事として捉えるか、完全に利他的なものとするか）。負担を考えると、概ね 15,000 ポンドくらいは支払うのが妥当と考える。

家庭裁判所は、子供の最善の利益に基づいて、代理母に 15,000 ポンドが支払われたケースで親決定命令を出している。余分なお金が支払われたという理由で子供を「返す」のはばかげているから。

代理母以外は皆支払いを受けることが許されている。かかった費用だけといって約 2,000 ポンドだけなんてばかげている。弁護士やカウンセラーは利益を得ているのに、代理母には何も支払われない。代理母は相当の補償を受けべきだと思う。逸失賃金などもカバーされるべきだ。

代理母たちはそのお金を療養や休暇にあてたいと考えている。すでに使い道を決めている人もいる（家族でディズニーランドへ行く、車の購入、家の改築など）。

Q. 妊娠中に依頼者と代理母が感情的に対立することはありますか？

妊娠が進むにつれて、代理母がもうたくさんだと思えるようになって、ほんのわずかな亀裂が入ることもある。依頼者がイラつかせることを言ったりすると、一



触即発となる。文字でのやりとりは誤解を生むことがある。依頼者はとても心配しながらも期待に満ち溢れているから、いつも今どうなっているのか知りたがる。それで、フラストレーションと緊張が高まることがあるが、子どもが産まれてしまえば解消する。COTS が間に入って仲裁することもある。

Q. “Altruistic Surrogacy” と “Commercial Surrogacy” の違いは？

イギリスは利他的代理出産を維持すべきだと思うが、宣伝はできるようにしてほしい。

COTS がやっているのは、まぎれもなく利他的代理出産だと思う。出産後も、子どものため、何ヶ月も依頼者へ母乳を提供している代理母もたくさんいる。それは利益のためではない。COTS の資金も微々たるもの。これまで金銭面で大変な思いをしてきた。

商業的代理出産では、クリニックが依頼者から多額のお金をとる。COTS に加入すれば、費用は 850 ポンドだけ。Brilliant Beginning なら 12,000 ポンドになる。あそこのエージェントでは、最初の電話だけで 650 ポンドもかかる。

ほかの国のことはあまりわからないのでコメントできない。ただ、前に、アメリカのエージェントを訪問したことがあり、そこはとてもよかったので人に勧め

たことがある。一番いいと思ったのは、代理母たちは毎月、カウンセラーのミーティングを受けていたこと。15 から 20 人の代理母に対して一度に行われていた。感動したし、イギリスでも同じようにやったほうがいい。素晴らしいシステムだ。そのエージェントを始めた男性は自身も不妊で、依頼者と代理母を同じようにケアして、プロフェSSIONナルでありながら心のこもった経営をしていた。

Q. Covid-19 の影響は？

COTS の運営でも、対面ミーティングができなくなったが、Zoom や Skype がとても役に立った。結構うまくいったと思う。クリニックで代理母に初めて会ったという依頼者もいた。

ソーシャルディスタンスが問題となっているが、何とか乗り越えてきた COVID-19 のせいで、代理出産の手続きに遅れが生じたこともある。

Q. 子宮移植についてどう思いますか？

今まで、考えたことがなかった。亡くなったドナーからのみ行われるものだという印象。

技術が発展して男性も妊娠できるようになったらどうかと思う。それは冗談だが、もし子宮移植ができるようになれば、人口はかなり減るのではないかという気がする。

(2021 年 6 月)



Kim Cotton

英国の代理出産の非営利団体 COTS (Childlessness Overcome Through Surrogacy) の創始者。1988年に創立され、1,078人の子どもが生まれた。

[Link](#)

1985年にイギリス初の代理母となる。1991年にも双子を代理出産。双子の家族は現在ニュージーランド在住だが、現在も Facebook などを通して繋がっている。